

タイトル：家族が協力して育む消費者にやさしい大規模果樹専作経営 ～フルーツ公園で未来の担い手に食農教育～

氏名(法人名)：川口 俊雄

1 経営の概要

川口氏は、昭和30年に就農したが米の生産調整対策が始まったのを契機に、水稻主体の経営から収益性の高い果樹への経営転換を図り、多品目の果樹専作経営を目指して規模拡大を進めてきた。さくらんぼと西洋なしを主体とした高品質大玉生産と環境にやさしい栽培技術の導入をいち早く進め、果樹を振興している上山市の農業の中で、環境保全型の果樹経営の先駆者として大きな役割を果たしてきた。

生産概況(H18)

品目	経営面積(a)		生産量(kg)
	自作地	借入地	
米	44		2,200
食用菊	10		1,400
さくらんぼ	95	25	5,000
西洋なし	60	40	24,000
すもも	15	45	
あけび	13		1,220
計	237	110	

2 活動内容

(1)自作堆肥と農地集積による規模拡大

「果樹栽培の基本は土づくり」の理念から、JAのライスセンターから排出される大量のモミガラを活用した自作の堆肥を製造して、毎年、圃場に投入し健全な樹体を基本に安定した果樹栽培を行っている。さらに周辺遊休地を借入して自力で園地造成し、土地交換による自宅周辺への園地集積で効率的な経営を目指し、規模拡大を図ってきた。

(2)高品質果実の安定生産

さくらんぼ栽培は、主力の「佐藤錦」の受粉樹として「紅秀峰」を大幅に導入し、安定生産を図るとともに高品質の大玉生産にも努め、消費者の要望に応えている。

西洋なしは、作業効率がよく、十分な採光が確保できる棚仕立てや着果数を限定した栽培管理で、高品質な3L以上の大玉生産を行ってきた。

(3)多品目栽培によるリレー出荷

5月下旬収穫の無加温ハウスから7月中旬まで収穫できるさくらんぼ、9月中旬に収穫できる極晩生種の大玉すもも「秋姫」とあけび、10月収穫の西洋なし「ラ・フランス」と多品目を栽培し、産直の顧客ニーズに対応したリレー出荷を実現している。

(4)環境と需要者を意識した販売戦略

西洋なしは、地域に先駆けてフェロモン剤を導入して環境保全型農業として成果を上げ、上山市全域への推進に貢献してきた。さくらんぼと西洋なしでエコファーマーの認定を取得している。

また、JA部会長として市場関係者との情報交換会を定期的に行い、上山市の果実販売の拡大を図ると共に、独自に仲間と共に量販店とのギフト販売ルートを開拓している。

3 今後の発展方向

今後も「いいものは高く売れる」の信念のもと、自作堆肥による土づくりを基本に、さらなる化学資材低減を実現し、消費者に安心してもらえる果実の生産を目指している。

今秋、消費者の要望に応え、品揃えの拡大やリレー生産の充実を図るため、新たにりんごの「ふじ」と「秋陽」の植付を予定している。

さらに地域への恩返しに、果樹栽培の体験を通じ、環境や農業、食の大切さを地域の子供たちに考えて欲しいとの思いから、フルーツライン沿いに自力でフルーツ公園の造成を進めている。